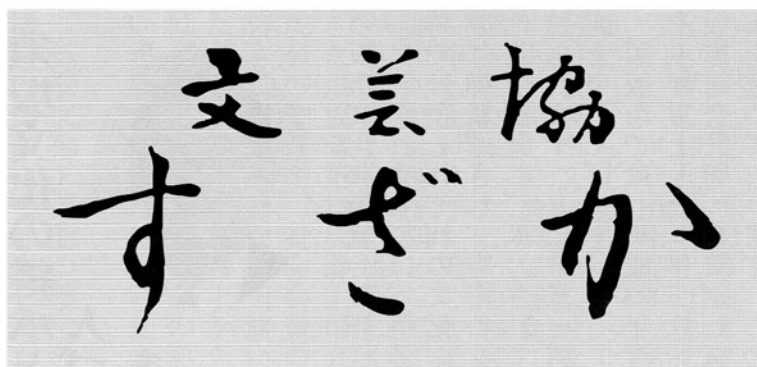




第34号

発行所
須坂市文化芸術協会

〒382-0013 須坂市常盤町747

須坂市中央公民館内

TEL(026)245-1598 (有)22-1598

印刷所：ヒタキ印刷株式会社



「本能寺」 無相伝心碧洲流碧象会



「三番叟」 花房多都蔵社中

半世紀におもう

須坂市文化芸術協会会長

南澤 汎 山



このたび会長を引き続きお受けし、改めて責務の重要性を感じ一層の努力をと、痛感しております。

て正面玄関には華道の皆さんによる大きな迎え花『おもてなしの心』で皆さんをお迎えした次第です。28日(日)にはメインであります当協会員有志による手づくり創作劇『第13代須坂藩主堀直虎公の生涯』を上演させていただきました。須坂にもこんなすばらしい先人が居て誇りを感じ益々須坂が好きになりました。

今回一同にしてすべて鑑賞出来た事、文化芸術協会の偉大さを感じましたとおっしゃる方が大勢おられ、そんな声を耳にしホッと胸をなでおろしました。さて、早いもので東日本・栄村大震災も2年が過ぎました。百年に一度とは言え被災経験を伝える石碑や津波にまつわる言い伝えがある神社が多くあります。『先人に学ぶ、後世に伝える』教訓ですね。一方史上最高齢三浦雄一郎氏エベレスト(8848m)登頂、03年70歳、08年75歳、13年80歳、3度の登頂。「人生諦めなければ夢は叶う、すばらしい宝物をいただいた」快挙ですね。

最後に山口県立大学が目指すことは『グローバル人材養成に取り組む』そんな講座が授業としてあります。アメリカ人の教授は、何より日本人として誇りと愛国心を自覚、地域と世界のかげ橋になる人材養成に力を入れるとの事、当協会の先人もそんな思いで築きあげてきたものと感謝しております。

第50回市民文化祭も大盛況に終日、行政、スポンサーの皆さん又々関係各位の御支援、御協力に厚くお礼申し上げます。我一同感謝申し上げます。

みれば昭和38年市内文化芸術団体が結集し、第一回市民文化祭が、市主催・公民館主管の下開催され、昭和58年第20回記念文化祭を契機に従来の「文化芸術連絡協議会」から「須坂市文化芸術協会」と改名、主催が移行されたことは、先人の薫り高い文化の高揚に普及発展に尽力された、自立への険しい道のりを痛切に感じました。平成4年には文化の拠点メセナホールの完成、併せて同時に第30回記念文化祭、音楽・芸能はメセナホール、謡曲・展示は公民館で開催されました。平成14年は第40回記念文化祭獅子舞い、メセナ少年少女合唱団笛の友情出演。そして平成24年大節目(半世紀)であります第50回記念文化祭。初の試みで4部門(謡曲・音楽・芸能・展示・茶席)一同がメセナホール全館にて開催、10月27日(土)・28日(日)。大ホールでは謡曲・音楽・芸能がミックスしての舞台発表、小ホールは展示作品、茶席は小ホールロビーと2F和室そし

須坂文化の継承と創造、 人づくりを皆様と共に



須坂市長 三木 正 夫

須坂市文化芸術協会の皆様方におかれましては、御健勝で日夜それぞれの文化振興に御精進され、当市の文化芸術振興にご尽力されておられますことに敬意と感謝を申し上げます。

須坂市では、平成23年度を初年度とした「第五次須坂市総合計画」を策定し施策を進めております。この計画では、まちづくりに対する基本となる考えと目標になるまちの将来像を示し、市民の皆様との「共創」ですすめていくというものです。その目標の一つが「多様な文化を学び育て、交流する創造的なまちづくり」です。創造的な人々が住み、一人ひとりが持つ文化的資源を持ち寄り、人々がまちの文化を育て、まちの多様な文化が人を集め、また

個々で学んだことを地域づくりにいかすための還元をとおして、市民の皆様が交流し、お互いを尊重し集えるまちづくりです。

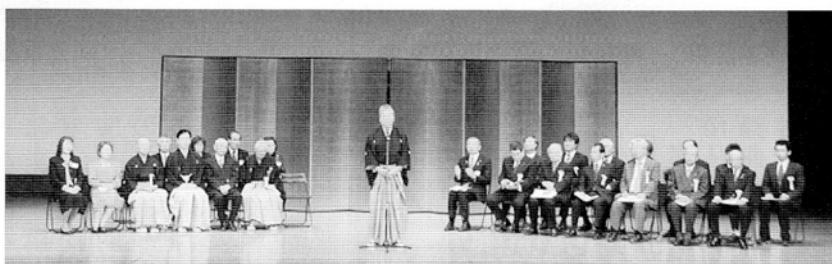
あわせて、市民の皆様と一緒に平成23年3月31日「須坂市文化芸術振興ビジョン」を策定しました。当市発展の基盤に須坂の文化、風土があることから、評価や新たな創造を繰り返し、文化芸術を核とした「持続可能なすざか」を目指すものです。

まさに、須坂市文化芸術協会の会員の皆様方が日頃の活動で実践されていることであり、感謝申し上げます。今後も、皆様と手を携えて、共創の精神により「須坂文化の継承と創造」そして「須坂の人づくり」といった生涯学習の推進施策を進めていく所存でありますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

平成24年度 第50回 市民文化祭 から



江戸千家



式典



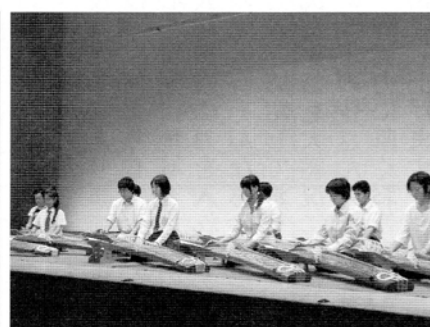
展示風景



ハーモニーコーラス

第3回 こどもわくわくフェスティバル

2012.9.17



伝統文化・芸術の継承活動

須坂市中央公民館長 牧 光 央



須坂市文化芸術協会の皆様におかれましては、日頃から様々な活動を通して、公民館事業にご理解、ご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

また、昨年10月27日、28日には、第50回市民文化祭が須坂市文化会館（メセナホール）に於いて盛会に開催されましたことを喜び申し上げます。その中で、第50回記念創作劇として江戸幕末期から明治維新に生きた須坂藩第13代藩主堀直虎公の生涯を、貴会会員の皆さまが一丸となり上演いただきました。舞台上からは、郷土を愛する皆様の熱い思いが伝わってまいりました。

伝統文化・芸能の継承の機会を提供につきましても、

貴会と中央公民館が連携して平成21年度から開催している文化芸術講座が5年を迎えました。このなかから講座終了後に受講された皆さんが、自らの学びとして継続した取り組みを進めていくためサークル化した団体が数団体あります。この陰には、講師を務めていただいた貴会会員の皆様

の親身になった丁寧な指導がありますことを感謝申し上げます。季節も移ろい、カッコウの鳴き声が聞こえる頃になりました。カッコウの鳴き声は夏を告げるといわれています。これから迎える夏に向け、須坂市文化芸術協会の皆様そして会員の皆様の益々のご活躍とご健勝、貴会の一層のご発展をご祈念申し上げます。

新役員紹介

役 職	氏 名	所 属
会 長	南澤 汎山	尺八汎山会
副会長	茂野 一雄	須坂宝生会
副会長	勝山 延洋	アンサンブルフローム
副会長	花房多都蔵	花房多都蔵社中
副会長	小林 孝子	草月流
副会長	北原 勲	石州流
会 計	宮崎さと子	小原流
事務局	跡部 汎鳳	尺八汎山会
幹 事	村石 武志	柏謳会
幹 事	小山 汎悠	尺八汎山会
監査員	関 滋夫	成山吟剣詩舞道会
監査員	小泉映美子	江戸千家

文芸協と私
①

いけばなと共に

池 坊 篠 原 友 子



昨年度の五十回記念文化祭に参加出来た事、特に合同での開催はそれぞれの部門の人々の努力と熱意に感動と感銘を受け心が弾みました。

めた事がそれからの人生深く関わって今日に至っています。

一つの道に永く携わったのも故人となられたとの出会い、同じ道をめす仲間との交流、そして子供達との関わりに心に何しろトキメキを持てて幸せの結果だと思っております。春夏秋冬それぞれの草の持つ姿を観察し、出牛重んじ先達が培って来た典から時代に即応したいばなにと永い歴史の中のんの一刻に自分が身を置いた事、その縁で文芸協に籍出来た事、新しい交流生まれれた事を嬉しいと思ます。

花をいける事により人心を和ませ優しい気持ちにせて、先人達が大切に和合、礼節の心を伝統とに受け継いで後に続く人に少しでも役にたてたら一歩ずつ前進しようと思っています。



私共、須坂消防木遣り保存会として、文芸協へ加盟しましたのは新しい方で

文芸協と私 ②

須坂消防木遣り保存会 市村 文男

文芸協と共に

ありますが、須坂消防木遣りが出来ましたのは歴史があると思います。須坂の町には明治二十年頃から製糸業が盛んになり、明治二十年十月、初めて私設消防組が設立し、その後昭和二十二年須坂町消防団と称される迄の、先人達の間で、生まれ唄われたと聞いております、盛んに唄われたのは、大正後期から、昭和初期の製糸業隆盛の頃で、消防出初式にも唄われておりました。その後製糸業も衰退し、唄う人も知っている人も減りました中、前会長中村義勝さんを中心有志が集まり、少しでも地域文化の継承と発展に寄与出来ますようにとの思いで発足し現在に致っております。今後とも文芸協の皆様方の御指導、御協力をよろしくお願い申し上げます。

昨年の市民文化祭は今までになく盛大に二日間の日程で開催されました。私は長い間役員をしてお手伝いしてきましたが音楽祭以外は他の団体の発表は観る事が少ない毎回でした。今回はすべての団体の方達の発表を観る事が出来ました。皆様それぞれに努力をして楽しんでる様子が大変良くわかりました。特に今回は同じ会場の中で舞台の合間に生花を観賞したりおいしいお茶をいただいたりホットする時間も味わえました。今回の市民文化祭はすべての団体が同じ会場で行われている所が大変良かったと思います。今後この様な各団体の良さも行われると各団体の良さもお理解出来るし、他の分野との交流に発展し新しい舞台も出来ると思います。ところで先日雅尚会の子供達の演奏会がありましたがこの日は桜のもとでの

文芸協と私 ③

五十回記念の事など

須坂雅協会 柳 雅芙葉

はずが天気が悪く博物館で行われました。今でも私の耳に残るすばらしい演奏曲目の数々に感動とパワーを子供達からいただきました。すばらしい演奏をありがとうございました。よかったとつくづく思っています。



フラダンス



さわやか謡曲教室



お茶席マナー

文化芸術講座 の ご紹介

文芸協と私
④

謡曲と共に

一謳会 宮澤繁美

謡曲は五流ありますが、須高地域には、観世流、宝生流の二流だけが活動されています。

私達の一謳会は観世流です。謡曲を習いたいと、門をたたいた師匠が観世流でした。そんな偶然が生涯の趣味となりました。今は、それを喜んで居ります。

立派な師匠、楽しい仲間、一週間に一度のけいこには励まし合いながら頑張っています。発表会がある時は、更に力が入ります。

年令を重ねながら、謡曲という目標のある人生を、すばらしいと感ずる時があります。

三月 須坂観世流連合会
七月 一謳会ゆかた会
十月 須坂市文芸協文化祭
十二月 一謳会納会

これからの謡曲を生涯の友として、生きていきたいと思ひます。

最初は宴会等の会席で、お肴が出来ればなんて不届きな考えで始めた謡曲に今では、はまり込んでいます。

文芸協の中で宝生会の方々の交流は勉強になったり、反省の材料になったりで感謝して居ります。

主な発表会は、

文芸協と私
⑤

文芸協と須坂市茶道協会

石州流 北原 勲

市民文化祭は昨年第五十回の節目を迎えました。お茶の各流派とも当初から係わっていたようです。長い間十一月の一日、三日が文化祭だったので三流派が公民館の茶室で席を持っていました。昭和57年には文芸協が発足し、須坂にあった六流派も参加しました。そんな中茶道関係者でまとまろうという気運が生まれ、打合せを重ね、昭和62年4月に、須坂市茶道協会を設立しました。設立総会には六流派の27名が参加しました。翌年の昭和63年の4月29日に第一回の市民茶会を開催しました。以後始めは毎年、その後隔年になりましたが、四月の桜の頃に臥竜山公会堂で開催しています。秋の文化祭には最近二流派が参加しています。



昨年からメセナで行っています。メセナには茶席の用意はありませんが、私達は利休さんもよくした趣のある野点もするので、工夫しながらやっております。須坂には茶室らしいものは公民館の二階にしかありませんので、茶会のできる施設が欲しいと思います。

第51回
須坂市民文化祭

メセナホール

10月14日(月)

音楽…大ホール

謡曲…小ホール

10月27日(日)

芸能…大ホール

10月26日(土)・27日(日)

展示…小ホール

茶席…2階和室・ロビー



花にふれてみよう



短歌教室



初心者のための箏教室

平成24年度須坂市文化芸術協会決算書

平成25年度須坂市文化芸術協会予算書

収入金額	2,277,628円	収入金額	1,013,898円
支出金額	2,242,780円	支出金額	1,013,898円
差引残高	34,848円 (次年度繰越金)	差引残高	0円

収入の部

単位・円

科 目	決算額	予算額	増 減	摘 要
前年度繰越金	27,720	27,720	0	前年度から
会 費	524,200	537,000	△12,800	48団体×3,000円+756人×500円
補 助 金	500,000	500,000	0	須坂市から
プログラム広告料	560,200	0	560,200	
基金繰入金	241,258	240,000	1,258	積立金+利息
記念誌代	409,200	0	409,200	@600円×682冊
雑 収 入	15,050	32	15,018	預金利息、ご祝儀、寄付金
合 計	2,277,628	1,304,752		

収入の部

単位・円

科 目	決算額	予算額	増 減	摘 要
会議費	4,520	25,000	△20,480	監査・三役会等
渉外費	70,300	55,000	15,300	交際費
普及活動費	24,217	35,000	△10,783	
通信・事務費	28,613	25,000	3,613	コピー代、コピー
負担金	0	5,000	△5,000	用紙、葉書他
事業費	1,440,980	890,000	550,980	須高文化交流会
名簿・会報	73,500	70,000	3,500	
広告	94,500	95,000	△500	
プログラムポスター	473,480	180,000	293,480	
謡曲部	50,000	50,000	0	
音楽部	95,000	95,000	0	
芸能部	300,000	300,000	0	
展示部・華道	100000	100000	0	
展示部・茶道				
長野舞台	167,500	0	167,500	
第50回文化祭	87,000	0	87,000	立看板、案内板、おれなど
第50回市民文化祭記念誌代	654,150	240,000	414,150	
予備費	20,000	29,752	△9,752	別途積立金
合 計	2,242,780	1,304,752	938,028	

基金（別途積立金）

20,000 円

収入の部

単位・円

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
繰越金	34,848	27,720	7,128	前年度から
会 費	479,000	537,000	△58,000	43団体×3,000円+700人×500円
補 助 金	500,000	500,000	0	須坂市から
雑 収 入	50	32	18	預金利息
合 計	1,013,898	1,064,752	△50,854	

支出の部

単位・円

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘要
会議費	20,000	25,000	△5,000	監査会・三役会
渉外費	10,000	55,000	△45,000	交際費
普及活動費	30,000	35,000	△5,000	
通信・事務費	25,000	25,000	0	コピー代、コピー用紙、葉書他
負担金	50,000	5,000	45,000	須高文化交流会、各種大会
事業費	864,000	890,000	△26,000	
名簿・会報	73,500	70,000	3,500	
広告	95,000	95,000	0	
プログラムポスター	180,000	180,000	0	
謡曲部	47,500	50,000	△2,500	
音楽部	89,000	95,000	△6,000	
芸能部	286,000	300,000	△14,000	
展示部	60,000	63,528	△3,528	
茶席部	33,000	36,472	△3,472	
予備費	14,898	29,752	△14,854	別途積立金
合 計	1,013,898	1,064,752	△50,854	

基金（別途積立金）

20,000 円

平成25年度須坂市文化芸術協会事業計画

期 日	事 業	内 容	場 所
4月10日(水)	定期理事会	決算報告・事業計画など	中央公民館
5月7日(火)	第1回役員会	役員・理事等の決定	中央公民館
5月14日(火)	第1回会報委員会	文芸協だより発行について	中央公民館
5月21日(火)	連携講座	公民館・各講座打ち合わせ	中央公民館
5月25日(土)	須高文化交流会		小布施
5月28日(火)	第2回会報委員会	文芸協だより発行について	中央公民館
6月1日(土)	連携講座の開始	6 講座	中央公民館
6月11日(火)	第3回会報委員会	文芸協だより発行について	中央公民館
6月18日(火)	第1回常任理事会	理事会について	中央公民館
6月25日(火)	第1回理事会	会費納入・会報等の配布	中央公民館
7月13日(金)	行政懇談会		
9月	第2回常任理事会		中央公民館
9月	第2回理事会		中央公民館
10月14日(月)	第51回市民文化祭	謡曲・音楽祭	メセナ
10月27日(日)		芸能祭	メセナ
10月26日(土)～27日(日)		展示・茶席	メセナ
12月1日(日)	第5回こどもわくわくフェスティバル		メセナ
平成26年			
1月	新年交流会		
1月	須高文化交流会	高山・小布施・須坂文化交流会	高山村
3月	会計監査	平成 25 年度収支決算	中央公民館

編集後記

編集会議でも、昨年の第50回記念須坂市文化祭は、話題になりました。

今年は、昨年に劣らず、五年目の連携講座やコラボによる市民文化祭の開催、

こどもわくわくフェスティバルの開催等で盛り上がる事を期待します。(勝山)

編集委員

花房多都蔵・勝山 延洋
北原 一雄・篠原 友子
西澤 盛男・藤澤 章道
卯之原慶治